

# <令和7年度 前期 自己評価>

銀の鈴保育園 令和7年10月  
(保育士及び保育補助業務にあたる職員22名が実施)

項目	評価内容	よく出来ている	ほぼ出来ている	努力が必要
1・保育理念・保育計画	1ー① 保育の基本（保育指針）を理解している。	7人（31.8%）	15人（68.2%）	0人（0%）
	1ー② 園の理念や保育目標を理解している。	5人（22.7%）	17人（77.3%）	0人（0%）
	1ー③ 園の全体的な計画（保育課程）を理解し、それに基づいて、保育の計画を立てている。	4人（18.2%）	13人（59.1%）	5人（22.7%）
	1ー④ 養護及び教育が一体的に展開されることを理解し、指導計画を作成している。	6人（27.3%）	11人（50%）	5人（22.7%）
	1ー⑤ 各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり、個々の発達にも留意したものを作成している。	6人（27.3%）	12人（54.5%）	4人（18.2%）
	1ー⑥ 自身の保育を振り返り、反省や評価を行い、次の指導計画の作成に生かしている。	4人（18.2%）	15人（68.2%）	3人（13.6%）
2・保育環境	2ー① 一人ひとりが安心して過ごせる環境が整っている。	6人（27.3%）	14人（63.6%）	2人（9.1%）
	2ー② 子どもが主体的に関わりたくなるような遊びの準備が来ている。	6人（27.3%）	15人（68.2%）	1人（4.5%）
	2ー③ 子どもが自ら遊びを展開していけるような場や空間の構成が出来ている。 また、子どもの活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している。	6人（27.3%）	14人（63.6%）	2人（9.1%）
	2ー④ 遊びに必要な遊具や用具、素材など質、数量に配慮して用意している。	10人（45.5%）	12人（54.4%）	0人（0%）
	2ー⑤ 子どもの発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をしている。	8人（36.4%）	13人（59.1%）	1人（4.5%）
	2ー⑥ 自然とのふれあいを大切に心が豊かになるよう配慮している。	10人（45.5%）	12人（54.4%）	0人（0%）
	2ー⑦ 季節の変化に応じて、保育室の環境を整えている。	10人（45.5%）	12人（54.4%）	0人（0%）
	2ー⑧ 子どもの発達や生活を見通した環境構成が出来ている。	8人（36.4%）	11人（50%）	3人（13.6%）
3・子どもとの関わり	3ー① 一人ひとりの発達を理解して接している。	7人（31.8%）	14人（63.6%）	1人（4.5%）
	3ー② 一人ひとりの生理的欲求が満たされるよう配慮している。	7人（31.8%）	15人（68.2%）	0人（0%）
	3ー③ 子どもの思いや考えに共感し受け止めている。	9人（40.9%）	13人（59.1%）	0人（0%）
	3ー④ 子どもとの温かなやり取りや、スキンシップを心掛けている。	11人（50%）	11人（50%）	0人（0%）
	3ー⑤ 子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。	9人（40.9%）	12人（54.4%）	1人（4.5%）
	3ー⑥ わかりやすい言葉で穏やかに話し掛けている。	8人（36.4%）	14人（63.6%）	0人（0%）
	3ー⑦ 子どもの年齢に応じて援助の仕方を工夫している。また、子どもが自ら考えたり行動出来るように見守り、行き詰っている時には適切な援助を行っている。	7人（31.8%）	14人（63.6%）	1人（4.5%）
	3ー⑧ 制止やせかす言葉を不用意に使わず、一人ひとりに合わせた対応をしている。	3人（13.6%）	15人（68.2%）	4人（18.2%）
	3ー⑨ 子どもを無視したり、体罰を加えたりすることは、いかなる場合もせず、子どもの人権を尊重している。	21人（95.5%）	1人（4.5%）	0人（0%）
	3ー⑩ 子ども同士の関係を良くするような言葉掛けをしている。また、喧嘩の場面では状況を適切に捉え、双方の思いを聞き丁寧に対応している。	11人（50%）	10人（45.5%）	1人（4.5%）
	3ー⑪ 年齢に応じた社会的ルールを身に付けていけるように配慮している。	9人（40.9%）	12人（54.4%）	1人（4.5%）
	3ー⑫ 子どもが保育者の手伝いをしたり、友だちを助けたり、協力し合える場面を設けるようにしている。	12人（54.4%）	9人（40.9%）	1人（4.5%）
	3ー⑬ 保育者自身が一緒に体を動かしながら、保育を楽しんでいる。	13人（59.1%）	9人（40.9%）	0人（0%）

4・職員間の連携	4－① クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉掛けや対応をするように心掛けている。	10人（45.5%）	12人（54.4%）	0人（0%）
	4－② 保育についての話し合いがなされ、職員間で共通理解をするよう心掛けている。	9人（40.9%）	11人（50%）	2人（9.1%）
	4－③ それぞれの役割を把握し、適切な動きが出来ている。	8人（36.4%）	14人（63.6%）	0人（0%）
5・保護者への対応	5－① 保護者に個々の子どもの様子を伝える工夫をしている。	9人（40.9%）	12人（54.4%）	1人（4.5%）
	5－② 保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くよう心掛けている。	11人（50%）	10人（45.5%）	1人（4.5%）
	5－③ 保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従い、園児や保護者、家族の情報は、口外しない。	21人（95.5%）	1人（4.5%）	0人（0%）
	5－④ 日常生活において、その場に合った正しい言葉を使っている。	9人（40.9%）	12人（54.4%）	1人（4.5%）
	5－⑤ 電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心掛けている。	8人（36.4%）	11人（50%）	3人（13.6%）
	5－⑥ 保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどし、もれないよう対応をしている。	11人（50%）	11人（50%）	0人（0%）
	5－⑦ 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする。内容によっては職員全体で検討し、共通理解の上で対処している。	11人（50%）	11人（50%）	0人（0%）
6・地域との自然やりの関わり	6－① 地域の人々と親しく挨拶を会話を交わすよう心掛けている。	15人（68.2%）	7人（31.8%）	0人（0%）
	6－② 地域の自然や施設、行事について理解するよう努めている。	8人（36.4%）	9人（40.9%）	5人（22.7%）
	6－③ 小学校の教育内容について理解し、幼・保・小の連携に努めている。	4人（18.2%）	12人（54.4%）	6人（27.3%）
	6－④ 子育て支援や地域開放について具体的な形や内容を理解している。	7人（31.8%）	7人（31.8%）	6人（27.3%）
7・健康と安全	7－① 園内の清掃や整理整頓、換気、彩光、室温などにも気を配り、清潔で快適を維持し、子どもが安心して過ごせる場所を提供している。	9人（40.9%）	13人（59.1%）	0人（0%）
	7－② 登園時には特に視診を丁寧に行い、子どもの体調を確認している。	13人（59.1%）	8人（36.4%）	1人（4.5%）
	7－③ 一人ひとりの体調をしっかり把握し食事の量や内容を変えるなどの配慮をしている。	12人（54.4%）	9人（40.9%）	1人（4.5%）
	7－④ 怪我や事故に気を付け、万が一、怪我や事故が発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている。	14人（63.6%）	8人（36.4%）	0人（0%）
	7－⑤ 園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は、安全な遊び方について子どもと一緒に考えて、怪我や事故が起きないように努めている。	8人（36.4%）	14人（63.6%）	0人（0%）
	7－⑥ 地震などの災害や火災に備え、積極的に避難訓練に参加し、非常災害時に自分がが何をしなければならぬか理解している。	8人（36.4%）	13人（59.1%）	1人（4.5%）
8・自己成長への意欲と自己ケア	8－① 自分の保育スキルの向上を目指し、研修や勉強会に積極的に参加している。	11人（50%）	8人（36.4%）	3人（13.6%）
	8－② 自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行っている。	8人（36.4%）	13人（59.1%）	1人（4.5%）
	8－③ 自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談できている。	7人（31.8%）	12人（54.4%）	3人（13.6%）
	8－④ 自分自身のストレスを適切に管理し、保育の質に影響を与えないようにしている。	5人（22.7%）	17人（77.3%）	0人（0%）
	8－⑤ 心身の健康を保ちながら、長期的に安定した保育活動ができている。	6人（27.3%）	16人（72.7%）	0人（0%）

# 令和7年度 前期 保育士自己評価結果と今後の取り組み

当園では、保育の質の向上とより良い園運営を目指し、全職員による自己評価を実施いたしました。その集計結果に基づき、前期の成果と今後の改善に向けた取り組みを以下の通りご報告いたします。

## 1. 前期の成果と高く評価された点：温かい「子どもとの関わり」

今回の自己評価において、特に「子どもとの関わり」の項目で高い評価が得られました。

一人ひとりに寄り添う共感的な保育 子どもたちの気持ちを受け止め、共感しながら関わろうとする姿勢や、信頼関係を築く温かいやりとりが丁寧に行われています。また、保育者自身が子どもと一緒に楽しみながら体を動かし、社会性や協調性を育む関わりも、多くの職員に浸透しています。

安全・安心な保育環境の維持 整理整頓や衛生管理、安全配慮など、保育の土台となる環境づくりが安定して行われています。これは園の保育理念が職員一人ひとりに共有されている成果であり、今後も継続していくべき当園の強みであると再確認いたしました。

## 2. 今後の課題と改善に向けた対策：地域とのつながりと専門性の向上

自己評価を通じて見えてきた課題に対し、後期は以下の取り組みを重点的にを行い、保育の質のさらなる向上を目指します。

地域・学校との連携強化 現在、高齢者施設や近隣の小中学校（高花小学校、船穂中学校）との交流を行っていますが、今後はその目的や活動内容を全職員でより深く共有する仕組みを作ります。地域交流や園外保育の機会を意図的に増やし、子どもたちが自然や人と触れ合う貴重な体験を広げてまいります。

子育て支援活動の周知と共有 子育て支援や施設開放についても、全職員がその目的と成果を共通認識として持てるよう研修を実施します。園全体で地域の子育てを支える意識を高めてまいります。

保育理念と実践の結びつき 園の理念や計画が日々の保育にどう活かされているか、良い事例を職員間で共有する場を設けます。定期的な振り返りを通じて、職員一丸となって「子どもたちにとって最善の保育」を追求してまいります。

当園は、これからも職員間で意識をそろえ、子どもたちが豊かに成長できる環境づくりに邁進してまいります。